

育児休業に関する体験記 2

30代 31日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

育児休業中の食事、洗濯、掃除などの家事全般。日用品の買い物などは出来る限り夫が行う。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

日中の家事・育児は妻が中心となり、休日は妻の負担を減らすように協力している。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

育児休業中は率先して家事全般を行ってくれました。夜中にミルクをあげる時には交代で行い、私の負担も軽減されました。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

自分が不在の時に分からないことがないように、引継ぎ事項は紙にまとめて同じ部署の同僚と情報共有した。

2. 評価・反省

担当しているお客様には育休に入る旨を連絡し、引継ぎはスムーズに行えたと思う。

③自由記述

私が育児休業を取得した理由としては、妻の実家の両親が共働きの為、妻が一人で育児をしなければならない時間が多く、負担を軽減してあげたいと考えたからです。また、第一子ということもあり、妻と二人で育児に専念したいという気持ちから取得させていただきました。職場からも「育児休業を取得してみてもどうか。」と提案があり、とても取得しやすい環境でした。

慣れるまではおむつを替えたりお風呂に入れることも一苦勞で、子どもと一緒に私たちも成長させてもらった気分でした。特に大変だったのは夜なかなか寝てくれないことと、深夜に夜泣きで何度も起こされることでした。どうして良いかわからず二人で日々悪戦苦闘していました。それと同時に、自分も赤ん坊の頃はこうだったのかと思うと、両親に対して感謝の気持ちが湧いてきました。

ただ、大変なことばかりではなく、日々子どもの成長を肌で感じる事が出来たのは、この上ない幸せでした。最初は40mmしか飲めなかったミルクも今では200ml飲むようになり、手のひらに指を差し伸べると力強く握り返してくれるようになりました。

育児休業を取得する前までは、男性は外で仕事をして、女性は育児に専念するものだと少なからず固定観念がありました。この1ヶ月間で妻の大変さが身に染みて分かり、今後も二人で分担して家事・育児をしていこうと感じられるようになりました。

これまで述べたことは、育児休業を取得しなければ考えることはなかったことばかりです。育児休業は私にとって、大変貴重な経験となりました。私以外の社員にも機会があれば取得することをおすすめしたいと思います。